

JR東海労ニュース

一方的な休日出勤反対！

闘争シリーズ No. 4

No. 752 2005年11月15日

JR東海労働組合

吠える葛西会長！

またまた持論を展開！

中国と対峙せよ！学園には監視カメラを！

11月13日、読売新聞「地球を読む」にまたまた登場した葛西会長。お得意の「反中国」「日米軍事同盟強化」「集団的自衛権の行使」を叫んでいる。10月29日合意した「在日米軍再編に関する中間報告」に関して「地元の要求に振り回され、米国の苛立ちが募れば中国は、外交と経済で日本を誘い日米分断を策すだろう」と「地元の要求など聞くな！」とする一方で、「特筆すべきは2008年から横須賀に原子力空母の配置が決まったこと」だと鼻息が荒い。まさに国粹主義者としてJR連合推薦の西村慎吾議員を凌駕する勢いだ。「地元住民の負担軽減」などは抑止力に対する破壊行為で、世論分断を誘引する、との主張に至っては「その地元に行ってから吠えろ」と言いたくなる。

それほどまでに「日米軍事同盟」が対中国戦略の要であり「21世紀前半の極東和平の枠組み」に重要であり「基地のある地元の声など無視しろ」と言うのであれば、次の提言が必要である。「沖縄、岩国、厚木など日米軍基地は日本のほぼ真ん中に位置する蒲郡＝海陽学園開校予定地に移転・駐留させよ」と。

さて、その「海陽学園」だが、偏差値主義ではなく「理想の学校」づくりを目指しているらしいが、初代校長には偏差値の最高峰に君臨した、元開成高校の校長・伊豆山氏が就任する。また「理想の学校」は全寮制で「人間的な成長を助け、創造性や自主性をはぐくむ自由な時間を生むだろう」とのこと。その自由な時間を生む学園は、すべての建物の出入りをIT管理する。防犯カメラ、動体感知システムで校内を監視、誰がどこにいるか常に把握するために全員にIT端末を持たせるのだ。これが葛西会長の言う「自由な学校」ということらしい。しかし、経営するJR東海では「明るく自由に物言える場所などない」「若い社員がぞくぞく退職している」。会社は明るくなくてもいいのだろうか！

A級戦犯・岸信介の判断は正しかった！
原子力空母の配置決定万歳！対中国戦う体制を確立せよ！